

読売理工医療福祉専門学校

学校関係者評価 報告書

2025 年度・第 1 回

2025 年 7 月 28 日

学校関係者評価委員会

目次

1. 学校関係者評価	1
2. 2024 年度 第 1 回学校関係者評価委員会	1
3. 学校関係者評価委員会委員および委員会参加者	1
4. 配布参考資料等	1
5. 現状報告と各学科へ意見	2
6. 委員からの評価（評価点：5 点満点）	4
7. 2024 年度の重点項目	6
8. まとめ	6

1. 学校関係者評価

学校関係者評価は、卒業生・保護者・地域住民・企業役職員等の学校関係者を委員として選任し、学校が実施した自己評価結果と取り組みに対する評価をする。

委員は以下の項目について評価し、教育活動と学校運営の改善に向けて学校に助言する。

- ・自己評価の内容が適切か
- ・自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切か
- ・学校の重点目標や具体的方策が適切か
- ・学校運営の改善に向けた実際の取り組みが適切か

2. 2025 年度 第 1 回学校関係者評価委員会

2024 年度における各学科の評価項目の取り組み状況と重点目標に関する取り組み状況を報告し、委員の方々に評価とご意見・ご提案を頂いた。

- ・日 時：2025 年 7 月 28 日（月）17:00～18:00
- ・場 所：読売理工医療福祉専門学校 306 教室

3. 学校関係者評価委員会委員および委員会参加者

【出席委員と学校側関係者】

【学校関係者評価委員】（敬称略・順不同）

- ・渡部 俊一：理工専校友会会長
- ・堀畑 尚子：保護者
- ・杉田 明治：地域住民
- ・松浦 正典：団体等
- ・羽場 宏祐：企業等（放送映像学科）
- ・鹿毛 信一：企業等（建築系学科）
- ・小嶋 守：企業等（電気電子学科）
- ・伊藤 大輔：企業等（臨床工学科）
- ・大竹 信子：団体等（介護福祉学科）

【学校側委員（オブザーバ参加含む）】

- ・藤本昌弘：理事長
- ・中村宏之：法人本部長
- ・坂本 浩：事務局長
- ・水落清治：校長
- ・小川貴之：校長補佐兼建築系学科長
- ・鈴木和弘：放送映像学科長
- ・栗島正晴：電気電子学科長
- ・沢田雄太：臨床工学科長
- ・曾我辰也：介護福祉学科長
- ・増田孝博：I T エンジニア学科長

4. 配布参考資料等

資料 1 2025 年度「教育活動その他の学校運営」

資料 2 2025 年度「学科状況報告」

資料 3 2024 年度「自己評価報告書」

5. 現状報告

①2024 年度の自己点検評価と書重点項目の報告

- ・除籍退学率 10%以下を目標として学生の指導にあたる。

2024 年度の除籍退学者は 37 名（除籍 4 名・退学 33 名）、除籍退学率は 7.81%（昨年度 9.32%）となり目標を達成することが出来た。内訳では、多いのは 21.6%が進路変更となっている。次に病気（精神的）、出席不良が多くなっていて、昨年多かった仕事関係は減っている。「進路変更」となっている、体調不良がきっかけであるケースもあったが、入学前から目指していたことについて考え、もう一度目指すなどの理由が目立った。月に最低 1 回の学科長会議でも状況を共有し、各学科の状況を確認だけでなく、年 2 回の奨学生連絡会議により新聞奨学生の状況も読売育英奨学会と共有し、休みが多い学生の指導に力を入れている効果も出ている。

- ・就職希望者の全員が就職できるように、就職指導の強化を行う。3 月末の就職内定率を 98%を超えるようにする。

前年度の目標 95%より高めに 98%目標にした。前年度は（2024 年 3 月卒）の就職内定率は 96.4%であった。2024 年度（2025 年 3 月卒）の就職内定率は 98.7%となり目標を達成することができた。就職希望者で内定がもらえなかったのは 2 名だった。本校だけでなく企業の求人活動が活発になってきていることが結果につながっていると予想されるが、2024 年度の目標は達成できた。

目標は達成できているが、就職率だけでなく、より良い希望の企業に就職できるように指導を強化したい。

②学校の状況

- ・新たに設置した I T キャリア養成科（1 年制）は定員 20 名を上回る 22 名が入学した。2025 年度の入学者数は 233 人となり、前年度から 11 人増えている。2026 年度は、現在の放送映像学科と T V ディレクター学科を統合し「映像クリエイター学科」として募集を開始している。テレビだけでなく幅広い映像コンテンツ制作を学べる学科となり、日本人学生募集に力を入れている。

③2025 年度の学校行事等スケジュール

- ・6 月 6 日 スポーツ大会（ジャイアンツスタジアム）
- ・6 月 27 日 ナイター招待（東京ドーム）
- ・11 月 1 日～2 日 学園祭

④各学科の状況報告と委員からの意見等

- ・放送

（委員）放送・TV の入学者が減、その理由は？

（学科）チャンネルに対するあこがれがなくなっているのではないかと。

放送と TV が合併して映像クリエイター学科になるので、放送技術＋プロダクションにも対応できる学科を目指す。入学希望者については、底を付いた印象なので、技術と制作が合体して総合メディアとしての学科を目指す予定

（委員）放送のメディア自体が変化。スマホだけで情報を取得している若者が多い。

（学科）スマホなどに対応したメディアにしなければならない。問題は、自身のスマホから自身の趣味嗜好に当てはまる情報しか流れない。犯罪などのニュースを知らない。

（委員）「放送」という言葉が固い。グローバルな視点で学科名を考える必要がある。内部でコース分けなどする必要があるのではないかと。

（委員）卒業生に対する支援について。

（学科）内定後転職希望の卒業生については、個別に対応している。

季節に関係なく、随時募集している企業を案内するなどサポートしている。

就職の解禁が早くなっている。定時採用から通年採用に企業側が変化・企業と学生を繋げる対応を行う。

(委員) 企業側から、退職する社員の補填を行う際、転職サイトではなくて卒業生とのマッチングができるシステムがあると良い。

(学科) 学科で検討する。

・電気

(委員) 現場では実技が重視される。現場見学など開催できるのであれば、是非学生に見て頂く機会を催せれば。

(学科) 検討する。

(委員) 建設業は人手不足。就職率も上がっている。外国の協力は不可欠。御校は前向きな取り組みをされているので評価している。

・建築学科 建築科

(委員) 留学生比率を5割にしてほしい。職場で、同じ国同士になると母国語になってしまう。

(委員) 大手の建設会社でも、高校生から青田刈りが続いている。学校としての特徴を出す必要があるのではないかな。

(学科) 高校訪問やガイダンスに加え、特徴を伝えるべく対応している。

(委員) 職場環境が過酷なので、インターンシップの充実

(学科) 1日ではなく、2～3日のプログラムへの参加を積極的に誘導する。

・臨床工学

(委員) 学生数が少ないところが気になる。認知度が課題。就職については好調。男女比は？

(学科) 半々。

(委員) 看護と臨床工学士で給与は変わらないなどをアピールすると良いのでは

・介護

(委員) 介護のなりてがいなくなってきた。学校もなくなっている

(委員) 魅力のない仕事と思われがちなので、魅力のアピールは現場、学校が必要では

(委員) 就職について、リクナビなどのサイトで見ていると聞いた。学科の求人について、学生に知られていない印象があるのだけれどどうか？

(学校) 求人に関しては、学科向けに来ている。来たタイミングでFormsにアプローチして、各学生が見られる環境を整えている。紙媒体もある。求人は他学科に比べると少ない。

(委員) 学校と地域との交流を引き続き行っていきたい。

9/13・14 お祭り、御神輿の担ぎ手を募集します。

12/7 文京マルシェ お魚号？プロレスなど実施予定

地下広場完成。大江戸線との直結。地下広場活用の企画も出してほしい

(委員) 放送ではドローンを使った授業を取り入れる予定？検討してほしい

(学科) ドローンもプログラムとして計画中

(委員) 設備環境について、どういう状況なのか。アピールのポイントを検討する必要があるのでは

(学科) 予算計画に応じて対応している。

(委員) 臨床では現場では若い人が多い。経験年数を経た年生層が少ない印象。キャリアアップのイメージは？

(委員) 50代、60代が圧倒的に少ない。年上は、後進の育成教育や、病院の経営に関わることになる。

- (委員) 全体を通じて、自身の将来象が見えないから、とつつきにくいのではないかな。
- (学校) OCなどで、卒業生のインタビュー記事を説明したりしているが、イメージしづらい
- (委員) 介護ではきっかけの一つとして、アピールが足りないのでは。
- (学校) 介護について、給与面などについてオープンキャンパスなどで説明し、理解に努めている

6. 委員からの評価（評価点：5点満点）会議終了後の回答

評価に関して段階（5＝申し分ない・4＝十分である・3＝標準的・2＝努力を要する・1＝不十分である）

①除籍退学率の目標を10%以下とするに対する評価（4.50）

- ・ご努力はされていると感じております。
- ・引続き努力をお願いします。
- ・前年度の除籍退学率よりも下がっている学科がほとんどであり、学校全体では7.81%だったとのことですので、個別面談などの対応が良かったのではないかと思います。
- ・必要な学生数を確保するのが難しい今の時代で、面倒見の良さなどは大学との差別化の意味でも重要な箇所と考える。それを数値化しているのが除籍退学率であると思うため、今も行っている。
一人一人の学生に寄り添った指導をより行って頂けたらと思う。除籍退学率の全国平均なども考慮し、それを上回る数値を出せたら、これからの入学者へのよいアピールポイントにもなると思う。
- ・2024年度の夜間建築科を含めた除籍退学率は8%で十分目標を達成している。
- ・目標に向かってご努力をされている結果の目標到達だと存じます。
- ・2023年度より更に成果を上げて目標を達成できている。学生のニーズが多様化している中で、先生方の指導や努力の賜物だと思う。引き続き良い成果が出るように、対応する先生方へのフォローもぜひ強化していただきたい。

②就職率98%以上の評価（4.50）

- ・業種によって就職の難しい業種もあるようですが良いと思います。
- ・社会一般に人手不足とはいえ、放送映像学科以外、就職率100%は素晴らしいことと思います。これからも今の状態を維持してください。
- ・ほとんどの学科の就職率が100%である中、放送映像学科の就職率のみ95.1%だったのが気になりました。
- ・のんびりしている学生に対しての個別指導を早めに始めるなどできないものでしょうか。
- ・人手不足の為、現在は目標を達成できているが今のうちにつながりを確保しておく必要がある。
- ・学生が自分の学んでいる分野により興味を持てるよう、学生のうちから企業説明会や企業見学を行い、自分の働く姿や環境が、創造できるような取り組みが出来れば、就職へのモチベーションが高くなると思う。今は人材不足で就職状況も良好であると思うため、学生のモチベーション維持が、就職率に繋がると思う。
- ・就職率100%達成。これからのAI、DXなど社会環境による企業の経営方針が気になります。
- ・先生方のご努力をされている結果の目標到達だと存じます。

- ・ほぼすべての学科で目標をクリアしており、企業側の人材の獲得競争が激しい背景もあるが、学校側の努力の成果であり、評価出来る。引き続き継続して取り組むとともに、企業とのつながり大切にし学生が安心して就職できるような環境を作っていけると良いと思う。

③教育活動その他の学校運営の評価（4.25）

- ・就職に絡むことですが、ぜひ、インターンシップを学生さんに進めてもらおうと良いと思います。これは企業側である私たちも助かり、やはり「百聞は一見に如かず」学生さん本人も「ミス・マッチ」が減ることは間違いありません。ご検討の程、よろしくお願いいたします。
- ・学科毎の職業教育・キャリア教育については、それぞれよく考えられていると思います。クラブ活動やボランティア活動がもう少し活発になると学科を超えた友達ができたり、社会的な経験も増え、就職活動の際に伝えられるエピソードができたりするのではないかと思います。
- ・留学生に頼りすぎ。せめて 50%・50%になる様にしてほしい。
- ・教育活動の一環として、学校行事は大事な要素のひとつであると思う。今年度は運動会・ナイター招待といった行事が行われており、とてもいい活動であると思った。読売という利点を活かしたこのような活動は、入学者を集めるためのアピールポイントにもなると感じる。学生同士の交流は、今後の社会でも大事であると同時に退学率低下にもつながると思う。これからも学校行事は積極的に進めて欲しいと思う。
- ・求められている人間力、コミュニケーション力、コミュニティの推進。学校受験生が興味を引く学科及び内容の開発が急務です。
- ・教育活動の充実に関しては、就職率の向上に現れていると存じます。
- ・学生への個別対応等、スクールカウンセラー等を活用しながら良く対応されていると思う。留学生も多く、言葉の問題も多少あるとは思いますが、専門学校として取得を目標とする資格の合格率 100%を目指して今後も取り組んで欲しい。

④学校運営に関する全体の評価（4.25）

- ・人口減少はまだまだ続きますので、更なる対策の検討をお願いいたします。
- ・いろいろなイベントや行事、クラブ活動など、素晴らしいと思います。今のまま、地域貢献密着を継続してください。
- ・日本人の 18 歳人口が減っていたり、関連する業界の変化、教員の不足などの問題がある中、様々な学科を設置し、それぞれの教育を実践的に行き各業界へ送り出しているという学校運営全体としては“十分である”と評価させていただきます。
- ・他の専門学校も同じですが学生の確保が厳しい状況です。差別化をはかり読売の名をアピールして学生の確保を望みます。
- ・キャリア教育として 1 つ加えてみても良いのでは？と思うことがあります。卒業生に来校してもらい、どんな仕事をしているのか、やりがいや苦労していること、在学中の反省点など話を聞かせてもらう機会があれば就職活動や入社後のイメージがしやすいかもしれないと思いました。
- ・学校での勉強への取り組み、就職への取り組みなどはとても評価出来ると思う。懸念点はやはり学生の確保であると思う。今の学生達の興味のある内容を聴取し、学校 PR 動画等、SNS で発信する内容は、興味からすくい上げ、入学へとつながられる構成になるよう、考慮してもらえたらと思う。
- ・2025 年の放送映像学科の入学者数の減少が気になります。

- ・ある方がおっしゃっていた、外国の方が多いクラスで、日本語での話があまり無くなり日本の方が多少浮く感じにという話がありましたが少し改善の必要があるかと感じました。
- ・カリキュラムの見直し等、実情に合わせて検討・対応していると思う。安定した学校運営のためには、学生の確保が今後も課題となるため、専門的に即戦力になり得る学びができる専門学校の特性をアピールするなどし、魅力を伝えていく機会を更に増やして欲しい。

7. 2025 年度の重点項目

今年度はさらに高い目標を設定して、退学者を減らすためにも、学生へのこまめな指導を行い、学生の情報を共有し対応に当たる。就職率の更なる向上を目指し全学生内定を目標として設定し、昨年度同様次の 2 点に重点を置く。

- ①昨年度に引き続き退学者の減少に努め、除籍退学率の目標を 7%以下とする。
- ②就職希望者の全員が就職できるように、就職指導の強化を行う。3 月末の就職内定率を 100%とする。

8. まとめ

今回の評価で委員の方々からいただいた意見・提案は、来年度の学校運営・教育内容に反映させていく。

以上